

# 平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.64

2010.12.6

発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

## 秋のつどいで平和への想いを交流

松園9条の会

松園9条の会は、11月13日、いわて生協ベルフまつぞの店の組合員ルームで「元特攻隊員の佐藤洗（ひろし）さんの歌とお話し」のつどいを開き、55人が参加しました。大木英二世話人代表のあいさつ後、「戦争体験と平和の想い」を交流しあいました。

お話は、聖ハリスト教会執事長・聖歌隊指揮者で元特攻隊員の佐藤洗さんが行いました。佐藤さんは、「特攻の『特別』というのは、『消耗品』ということで『弾除け』にすぎなかった」「たった4ヶ月の訓練で出撃されようとした」と自らの体験に触れながら平和への想いを語り、戦争にまつわる「昂（すばる）」「誰か故郷を思わざる」「雨のブルース」「人生の並木道」などの歌をアコーディオンで演奏しながら参加者とともに歌いました。



交流会では、松園地域から、予科練志願を知らせた友達からの返事のはがきを紹介した菅原利久さん、盛岡駅の米軍爆撃を知らせた長尾正一さん、亡くなった夫の出征時の様子を紹介した上田テイ子さん、田老鉦山で米軍の爆撃を体験した佐藤淳子さんが思いを語りました。

参加者は「こうした体験をみんなで引き継いでいこう」と交流し、今後につなげる活動にしていけることを誓いました。

(松園9条の会 事務局 小林絃一)

## 和賀地方の戦争を知るつどい

10月30日、「和賀地方の戦争を知るつどい」が北上市和賀町で開催され、北上・花巻をはじめ、盛岡・紫波・金ヶ崎・一関・宮古から約30名が参加し、小原麗子さんのお話、阿部容子さんの朗読に耳を傾けました。

26年間「千三忌」を主宰する小原さんは、「千三忌を始めたきっかけには、国にわびながら死んでいった自分の姉のことがある」と切り出しました。小原さんの姉は、夫を戦地に送り出しながら、病気で入院し、国の非常時に役に立てぬ自分をわびて23歳で鉄道自殺したといっています。小原さんがこのことを姉の世代全体の問題だと考えるようになったころ、高橋セキさんの一人息子千三の墓に出会ったといっています。

後半は、絵本「石ころに語る母たち」のスライドに合わせて、阿部容子さんが、セキと千三の悲しい別れを朗読してくれました。阿部さんの語りのすばらしさに、一同はセキと千三の世界へと引き込まれていきました。

午後は会場内に隣接する北上平和記念展示館を見学しました。この展示館は藤根で約40年間教員を務めた



高橋峯次郎さんに届いた7千通の軍事郵便を保存・展示し、戦争体験を後世に伝えるために、2002（平成4）年に開設された施設です。この軍事郵便は歴史的価値も高く、全国から研究者の来訪が耐えないとのことでした。

他にも、高橋さんが自費で建立した平和観音堂や、後藤野飛行場跡、横川目の中島飛行機地下工場跡も見学しました。最後に高橋セキさんが10年かけて建てた千三さんの墓を拝み、セキさんと千三さんに思いを寄せ、戦

争の惨禍を二度と繰り返さないことを誓い合いました。

(岩手・戦争を記録する会通信より)

今月の署名行動

12月は、9日(木)12:00~12:45に「肴町アーケード入口」にて行います。是非参加ください!

# 沖縄知事選 仲井真候補が再選 公約「県外移設」の実行は!?

まず報道を見ると、①28日投開票の結果＝当選・仲井真弘多 335,708 票無現（公明、みんなと自民県連推薦）、伊波洋一 297,082 票無新（共産、社民、沖縄社大党推薦）、金城竜郎 13,116 票諸新、投票率 60.88%（前回 64.54%）。②識者談話では＝「仲井真氏は初当選の際『普天間の危険性の除去』を言いながら、4年間何もできなかった。」「尖閣、北朝鮮が仲井真氏に追い風」「任期後半に何らかの進展?」「本土の政治家や国民、メディアはこれ以上、沖縄に踏み絵を迫るような残酷なことはやめてほしい。」等です。加えて「菅・民主党政権の傍観と苦境」等も指摘されていることから、「日米合意の実行」を迫る「自民の攻勢」も予想されます。

今後、この選挙へは傍観していた民主党政権が、この結果を受けてどう動くのか？そして、私たち平和憲法9条をまもる岩手の会など平和を訴える団体や組織は、日本国憲法と国連憲章に基づき、「軍事的対応」ではなく国際政治の流れである平和外交交渉による平和確立を求めながら、非平和の原因である「日米安保条約」を再度見つめ直させ、“日本国内に米軍基地はいらない！”の世論を広げるとともに、沖縄県民の引き続く「米軍基地の県外移設」の声に連帯するメッセージを発することが必要となるでしょう。

## いわてピースキャンパスでは「基地を日本全体のものとして考えて」

平和の願いを実現するため、みんなで学びあい・話し合う場として、「いわてピースキャンパス」で半年に1度の学習発表交流会を、10月30日に開催しました。

現在7つあるチームからの発表は、代表して「今日の日米同盟」について学んでいるチームが、安保条約をわかりやすい言葉に訳して寸劇風に発表しました。

学習としては、沖縄在住で元沖縄市議の金城健一さんから、「沖縄の歴史と、今の沖縄の情勢・県民の思い」と題して講演いただきました。

沖縄の戦争と米軍基地をめぐる歴史、沖縄の県民の思いをお話しいただき、「平和憲法のもとに帰りたい」と本土復帰を願い、返還後もなお基地問題で苦しむ沖縄の思いを、重く受け止める学習会でした。また、「9条のおかげで戦争に行くこともない。子どもや孫にも銃を持たせない。9条を守ることが私たち国民のつとめ」と憲法9条についても熱く語られました。

参加者からは、「沖縄の闘いに連帯することが、憲法9条をまもる闘いにつながることを実感した」などの感想が寄せられました。

（いわて生協 平和・ユニセフ担当 山崎宏美）



## コラム 参院も憲法審査会の規定制定へ 改憲を許さない世論づくりを

民主・自民両党の参院国体委員長は、10月19日に会談し、今国会中に参院憲法審査会の規定制定をめざすことで一致していましたが、制定は見送られました。

憲法審査会は2007年8月、改憲手続きを定めた国民投票法に基づき、衆参両院に設置されました。衆院では2009年6月に自民、公明両党などの賛成多数で規定が制定されたものの、参院は未整備のままで、審査会は衆参両院を通じて一度も開催されていません。規定は審査会の定員や表決方法など運営手続きを定めるものです。野党時代の民主党は、採決には反対するが、制定そのものには反対しないという矛盾ぶりでしたが今回は自民党に同調し、改憲準備を急いでいました。国民の願いと対立する改憲のための策動を許さない世論づくりは重要です。しかし、テレビメディア、全国紙はこれらの動きをほとんど報じていません。

規定制定の動きは、憲法9条を改悪する条件づくりとも言えます。今後も情報をとらえ、伝え、改憲を許さない世論を作れるようにアンテナを張っていきたいと思います。

（事務局）